

令和7年8月21日

清水町議会議長 山下清美様

清水町議会厚生文教常任委員会
委員長 田村幸紀

所管事務調査について

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事項 高等学校の振興策について
2. 調査期日 令和7年7月14日～15日
3. 調査先 北海道大空高等学校（大空町）
北海道おといねっぷ美術工芸高等学校（音威子府村）

4. 調査の結果

清水高等学校の振興策を検討するにあたり、道立から町村立へ転換した事例や、総合学科・専門学科として地域と連携した特色ある教育を展開している高等学校の取組事例を今後の清水高等学校の魅力づくりや生徒確保に繋げることを目的に、北海道大空高等学校及び北海道おといねっぷ美術工芸高等学校を視察調査した。

（1）北海道大空高等学校の概要と特色

北海道大空高等学校は、かつての道立女満別高校と町立東藻琴高校を統合し、総合学科の町立高校（校舎は旧町立東藻琴高校のものを活用）として令和3年度に新設された高校である。

女満別空港を有する大空町の学校として「飛行機人（ひこうきびと）」という理念のもと、生徒が自らの人生設計を考え、主体的に学ぶ力を育む教育方針を掲げ、進学や就職など多様な進路希望に対応できる柔軟なカリキュラムが整備されている。町立化の過程で町民主体の「高校魅力化プロジェクト検討委員会」を組織し、地域課題の探求授業などで役場や住民と連携、地域行事への参加、地域の活動団体や自治会などとの協働プロジェクトなど、地域に根ざした学びの実践を展開している。また、公設寮を完備し、地域みらい留学制度を活用して全国からの生徒募集体制を整えるとともに、個別対応型教育の実践、公設塾の整備などにより、都市部大学への進学実績も伸ばしている。町立化によって自治体が直接、教育環境整備に関与できることが大きな強みとなっている。

（２）おといねっふ美術工芸高等学校の概要と特色

おといねっふ美術工芸高等学校は、全国唯一の全日制村立高校で、全国でも珍しい木工芸や美術など工芸分野の専門教育を行う道内唯一の工芸専科高校である。

村の木材資源の活用や地域行事との連携、作品の展示・販売、SNS発信など、多角的な地域連携による教育により、村の活力創出にも大きく寄与している。同校も地域みらい留学制度を活用し、全国募集による入学者確保を実現しており、少人数教育と全寮制による生活支援を組み合わせ、生徒一人ひとりの将来を丁寧に支えているところに大きな特徴がある。

村の総人口605人（令和7年6月末現在）のうち、生徒を含めた高等学校関係者が22.6%の137人を占めており、高等学校の廃校は村の存続危機と捉え、村の総合戦略において、高等学校を中心に据えた村づくりを展開している。しかし、小規模校であるがゆえの運営基盤の弱さや、公設寮や学校施設等の経年劣化による大規模改修原資の確保、進学や就職といった出口支援を持続的にどのように展開していくかも課題となっている。

（３）まとめ

今回の視察から明確になったのは、学校の魅力は単なる経済的支

援や生活インフラの整備だけで作られるものではないということである。一定の支援は必要不可欠な基盤であるが、最も重要なのは、「そこで何を学べるのか」という教育の質をどれだけ明確に示すことができるかどうかであり、本町でいえば、「清水高等学校でどのような学びを提供できるか」である。

清水高等学校の大きな強みのひとつは、言うまでもなく全国屈指のアイスホッケー部である。これを単に「強豪校で競技を続けられる場」として提示するだけでなく、スポーツを学問やキャリアに繋げる学びの資源として位置付けることも重要である。加えて、本町には農業や食資源、自然環境などの強みがある。これらも単に教育カリキュラムのなかの活動や体験だけにとどめるのではなく、農業の6次産業化やフードロス、環境保全、観光学習といった複合的な学びを設計することで、清水高等学校ならではの独自性が一層際立つこととなる。つまり、アイスホッケーを核としながら、さらに地域資源を学びへと変換し、その魅力を全国に発信することこそ、競技に打ち込むために清水高等学校を選択した生徒にとってはもちろん、進学や就職を見据える幅広い生徒にとっても「ここで学びたい」と思わせる真の魅力となり得るのである。

また、都市部では進路の選択肢が多様である一方、地方では「普通の進学」や「人と違う進路」が選ばれがちであることは否めない事実であるからこそ、調査先の2校のように少人数教育や生活支援施策を活かし、多様な目的・個性を持つ生徒を受け入れる環境を整えることも、現代社会に合った学校の価値だと言えることを付け加える。

今回の視察を通じ、道立高等学校としての制約がある中で、町が主体的にどのように関与できるかを整理し、清水高等学校が、「アイスホッケーや地域資源を学びに変える唯一無二の高等学校」となることを強く期待する。その実現に向け、町や農協、商工会、そして地域住民と連携した学びの設計、生活支援の環境整備、そして全国への発信を総合的に進めるべきと提言する。

以上、厚生文教常任委員会の所管事務調査の報告とする。